

.....

この数週間に、皆さんからたくさんのご質問をいただきました。多岐にわたるものもあれば、イスラエルに関するもの、黙示録に関するものや、患難に関するものもあります。全部にはお答えできませんが、この中からいくつかお答えしていきます。中にはとても興味深い質問もあります。では、Q&Aをはじめましょう。

【質問1】誰もこの質問に答えられなかったのですが、「キリストの花嫁」と「キリストの体」の違いは何ですか？

【答え1】ちなみに、これに関する間違った教えがたくさん出ています。しかし、聖書に留まっていれば、答えはとてもとてもとても簡単です。

5 **大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。**
(ローマ 12:5)

27 **あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。**
(第一コリント 12:27)

12 **それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、**
(エペソ 4:12)

24 **ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。**

(コロサイ 1:24)

(書記注:ライブでは1:15と言っているが、キリストのからだはココ。↑)

これらの御言葉の中で、キリストのからだである私たちについて説明があります。その中で、体には異なる臓器があるが、それぞれの臓器が、互いにとってどれほど重要であるかが書かれています。これを見ると、私はいつも、小さなウィルスがからだ全体にどれほどの影響を与え得るかを思い出します。一つの小さな臓器が、非常に重要な働きをします。肝臓の働き、肺の働き、心臓の働き、血管も、それぞれの働きを聞く度に、それ無しには体が機能しない事に、私は感動するのです。時には取り替えなければなりません。それでも、その働きをする何かが必要です。私たちの一人一人が臓器であり、私たちの一人一人が同等に重要です。このように、私たちは体です。それは機能性の側面から見た、この地上での私たちのあるべき姿です。私たちは、ここではキリストの代表です。聖書には、私たちのことを、主の大使だと書かれています。次に、キリストの花嫁について。これは、私たちの目的地であり、私たちの立場です。私たちの機能性ではなくて、私たちの目的地です。私たちは、主が来られて私たちを連れて行ってくださる為に、自分を整えるのです。私たちには、その立場が与えられています。それはエペソ人への手紙 5:23~25 に書かれています。私が思うに、キリストの花嫁に関して、エペソ人への手紙

を読んで、他の結論は出せないでしょう。聖書には次のように書かれています。

- 23 **なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。**
- 24 **教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。**
- 25 **夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。**

(エペソ人への手紙 5:23~25)

このように、ここでは比喩、比較がされていて、私たちはキリストの花嫁です。そして、夜の盗人のようにやって来るといふ、キリストの来臨の仕方、また、主が私たちの為に場所を備える為に先に行かれた様子は、ユダヤの結婚式の描写とピッタリ重なるのです。私たちも、父の家に花嫁のための場所を用意します。そして、夜中に戻って行って、花嫁を連れ去るのです。花嫁は準備をしています。準備を整えて、ただ花婿が来て、連れ去ってくれるのを待っているのです。主も、それをされるのです。ということで、これは同じものです。私たちは、この地上にいる間は、キリストのからだとして機能し、そして、主が来られる時、私たちはキリストの花嫁。それが私たちの目的地であり、立場なのです。

【質問 2】コロサイ人への手紙 1:23 の「ただし」(※ 英語では “If・もし” となっています) という言葉について。これは言語ではどのように書かれているのでしょうか？ どうして「ただし」が使われているのか、説明してください。

【答え 2】コロサイ人への手紙は、私の大好きな書のひとつですが、1:21 から読んでみます。

- 21 **あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行いの中にあっただのですが、**
- 22 **今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。**
- 23 **“ただし” あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。**

(コロサイ 1:21~23)

ここの「ただし」という言葉は、非常に重要です。実際ギリシャ語「eige」も同様です。これは、基本的に事実について語っていて、確かに、キリストは彼のすべき事を果たされた。彼は、私たちの為に死なれたのです。私たちは、自分たちの行いの為に、神から離れていて、主が、和解の働きをしてくださいました。しかし、何かを生み出すのは大事なのです。「ただし(もし)」、私たちが信じるなら。「ただし(もし)」、私たちが福音に踏みとどまるなら。「ただし(もし)」、私たちが福音によって、生きるなら。

これが、次の 3 番目の質問に繋がります。

【質問3】使徒の働き 8:14~17 について説明してください。ピリポがサマリヤに行って、福音を宣べ伝えた時（書記注：使徒 8:12）、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けたのに、聖霊を受けていなかったのですか？

【答え3】

- 14 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。
- 15 ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。
- 16 彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだれにも下っておられなかったからである。
- 17 ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

（使徒の働き 8:14~17）

これが問題なのです！福音を聞いて、「宗教として」——宗教的な働き、儀式として受け入れることもできます。もしくは、福音を聴いて、聖霊が働くようにすることも出来ます。聖霊を招き入れ、その働きによって新しく生まれる。そうすることによって、あなたも非難されるところのない者として御前に立てるのです。言い換えれば、ここで起こったのは宗教の取り換えです。世界中であまりにも多くの人々が、キリストのメッセージを聞くのは宗教的なことであって、それが彼らの宗教なのです。彼らは、聖霊の働きを受け入れません。彼らは、それを認識すらしません。聖霊そのもの、聖霊の力が、人を新しくするのは、そのことばの中には・・・ことばが放たれ、——ことばとは、イエスです。主は、人となって、私たちの間に住まわれたのです。しかし、その“ことば”は、私たちが受け入れ、聖霊の力によって、私たちが内側から変えられなければ、何も働かないのです。つまり、イエスが死なれ、すでに世界中で福音が聞かれています。しかし、大部分で世界中の殆どの人が未信者です。なぜか？それは、聖霊が彼らの内側で、彼らを通して働くことを、彼らが許さないからです。神は、宗教には興味がありません。宗教的な人にも興味がありません。宗教的な儀式にも興味がありません。疑うのなら、イザヤ書 1 章を見てください。私は初めてイエスを受け入れた時、1 章全部に驚愕しました。神がどれほど、宗教を憎んでおられるかが、そのとき分かったからです。神はイスラエルの人々にこう言われました。

- 13 …新月の祭りと安息日——会合の召集、不義と、きよめの集会、これにわたしは耐えられない。

（イザヤ 1:13）

わたしは、そんなものは要らない、と言われたのです。

まずは、正しくなりなさい。孤児や、やもめを正しく扱いなさい。悪を行うのを止めなさい（17 節）。

そして、「さあ、来たれ。論じ合おう。」と。（18 節）。

では、どうすれば私たちにそれが出来るのか？それは、私たちが内側から変えられなければなりません。そして、それは聖霊にしか出来ないことなのです。

【質問4】責任が問われる年齢については、どう思われますか？

【答え4】面白い質問です。ユダヤ教では、女性は 12 歳、男性は 13 歳。とても興味深いですね。イエ

スでさえ、12歳から13歳の頃、エルサレムに行かれた事が聖書に書かれています（ルカ 2:42）。私たちは、女の子にはバトミツワー、男の子にはバルミツワーと呼び、基本的には、天に銀行口座を開く、と表現します。その時以降、どんなことでも、本人の悪い行い、罪は、親のものではなく、本人の天の銀行口座に記載されるのだ、と。責任が取れる年齢について、私には明確な答えは分かりませんが、私たちユダヤ人が信じていることをお伝えしておきます。私は、これは良いことだと思います。自分の子どもや、私の周りの子どもたちを見ていると、慎重に選択する事、自分の選択の意味を理解し始めるのが、ちょうどこの年齢ですから。

【質問5】「エノク書」について、考えを聞かせてください。

【答え5】これは、とても面白い質問ですね。エノク書というのは知っての通り、聖書の正典ではありません。聖書の一部として受け入れられていません。聖霊がそれを許さなかったのです。「でも、待ってください。ユダの手紙 14~15 節でもエノク書を引用してるじゃないですか？」と言う人もいますでしょう。

- 14 **アダムから七代目のエノクも、彼らについて預言してこう言っています。「見よ。主は千万の聖徒を引き連れてこられる。**
- 15 **すべての者にさばきを行い、不敬虔な者たちの、神を恐れずに犯した行為のいっさいと、また神を恐れない罪人どもが主に言い逆らった無礼のいっさいとについて、彼らを罪に定めるためである。」**

(ユダの手紙 14~15 節)

説明しますと、エノク書は、キリストのわずか 300~400 年前に書かれたと言われています。伝統では、アダムから七代目のエノクによって書かれました。しかし、皆さん、理解しなければなりません。それが正典に加えられることを、聖霊が許さなかったという事実です。それは聖霊によって書かれたものではないからです。たくさんの外典（偽典、アポクリファ）が存在しますし、たくさんの書が書かれました。しかし、それらは聖書に入っていません。きっと中にはとても興味深く、歴史的に、とても重要な意味を持つものもあるでしょう。ちなみに、だからこそ、それらは用いられたのです。しかし、それらは、神が私たちに与えたいと願われる聖霊によって書かれた、完全無欠な神の御言葉ではないのです。とても面白いことに、ユダヤ人でさえも、それらを彼らの聖書としては受け入れていません。ただし、エチオピア系ユダヤ人のベタ・イスラエル（イスラエルの家）だけが、——大雑把に 20 万人ほどですが、——受け入れています。ちなみに、死海文書の中にエノク書もいくつか見つかっています。ですから、先ほども言いましたが、それは、キリストの 300 年程前に書かれているのです。それは、人々が用いて、人々が読み、さらには引用したのです。それでも、それは靈感によって書かれた完全無欠な神のみことばではない、と考えられています。それは「ミドラーシュ」だという人もいます。ミドラーシュとは、祝福について書かれた申命記 33 章の注釈書です。少なくとも、ユダの手紙 14~15 節で引用されているのはミドラーシュで、申命記 33 章の注釈書です。また、大体 500 ほどの村があるエチオピア北部から来た、エチオピア系ユダヤ人の人たちは、他にもいくつかの外典を信じており、エノク書はその内の一つです。ですから、ユダヤ人の中でも、ごく少数数だけがこの書を保っているのです。ちな

みに彼らは、王国が分断した時のダン部族の子孫か、もしくは、ソロモン王とシバの女王の情事の結果生まれた子どもの直系の子孫だと言われています。彼らは、それが初代王のメラニーだと信じています。ということで、それに伴うたくさんの伝統や話がありますが、エノク書も同様です。

【質問 6】ダニエル書 11:40~45 について、説明してください。終わりの時について書かれた、南の王が、北の王を攻撃すると書かれていますが、ダニエル 11 章の北の王とは誰で、南の王とは誰のことですか？

【答え 6】

- 40 **終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて、彼を襲撃し、国々に侵入し、押し流して越えて行く。**
- 41 **彼は美しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。**
- 42 **彼は国々に手を伸ばし、エジプトの国ものかれることはない。**
- 43 **彼は金銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人とクシュ人が彼につき従う。**
- 44 **しかし、東と北からの知らせが彼を脅かす。彼は、多くのものを絶滅しようとして、激しく怒って出て行く。**
- 45 **彼は、海と聖なる美しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。**

(ダニエル書 11:40~45)

これはとても興味深く、私たちにはそれが誰であるかは、はっきりとは分かりません。これは、終わりの時について、御使いがダニエルに伝えた内容で、どちらの王も、ダニエルの時代に生存していた人物ではありません。彼が、これは終わりの時の話だ、と書いていますから。北の王は、全文脈を読むと、復活したローマ帝国を伴った反キリストではないかと思われれます。では、南の王とは誰か？私は、ここしばらく、これについて調べているのですが、エジプトが何度も南の王として登場しています。エジプトは、イスラエルを守り助ける為に大きな役割を与えられています。いずれ、イスラエルとエジプトの間に大路が出来る事も、私たちには分かっています（イザヤ 19:23 参照）。また、ゼカリヤ書 14 章を読むと、イエスが地上に戻って来られる前の、最後の戦いについて書かれています。そして、その中にエジプトの国がはっきりと出てきます。ゼカリヤ書 14:16 です。

- 16 **エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、**

(ゼカリヤ書 14:16a)

これは有名な「ハルマゲドンの戦い」です。

- 16 **…毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。**

(ゼカリヤ書 14:16b)

そして聖書はこう伝えています。

17 **地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。**

(ゼカリヤ書 14:17)

そして、具体的にこう書かれています。

18 **もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を主が打つその災害が彼らに下る。**

(ゼカリヤ書 14:18)

言い換えれば、エジプトは患難とハルマゲドンを生き残る国である、と聖書は具体的に告げているのです。ここに他の国の名前が出て来ないのに、エジプトだけが出てくるのが、私にはとても不思議だったのです。ですから、エジプトが南の王である可能性が高いと思うのです。でも、分かりません。いつも言っていますが、これは終わりの時のことであって、私たちはここにはおらず、この戦いを見ることはないのです。ゼカリヤ書 14:5 後半に書かれている通り、私たちは主とともに戻って来るのです。

5 **…私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。**

(ゼカリヤ書 14:5b)

聖書によれば、この同じ日に、主の足がオリーブ山に立つのです。聖書には、こうあります。

4 **その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。**

(ゼカリヤ書 14:4)

イエス・キリストが戻って来られます。そして、聖徒達、私たち全員が、その戦いを終わらせるために、主とともに来ます。私たちは、その戦争の最中には、ここにはいないのです。ともかく、ここで名前が挙がっている唯一の国がエジプトであることから、エジプトが、北の王に立ち向かう国であるというのが、私の考えです。非常に興味深いですね。

【質問 7】イスラエルに関する質問です。ベニヤミン・ネタニヤフの顧問として呼ばれたことはありますか？イスラエルは、特に諜報社会においては、とても厳密な社会だと理解しています。ユダヤ人クリスチャンであるアミールさんは、宗教指導者としてとても尊敬されていると思いますが…。

【答え 7】いいえ。私は一度も呼ばれたことはありません。今後も、招かれたいと思います。主流のユダヤ人たちが、イエスを信じるユダヤ人からのアドバイスを必要とし、求めるとは思いません。また、ベニヤミン・ネタニヤフには、私のアドバイスは必要ないと思います。前にも言いましたが、あなたにも、私にも、止められないことがあります。私が行って、「これをしてはいけない。」とか、「あれをしてはいけない。」とか言って、歴史の流れを変えることは出来ないのです。機会があれば、彼らをキリストに導く事は、もしかすると、私にも出来るかも知れません。しかし、率直に言って、世界で起こることは既に定められており、決定されているのです。それは、神が、世界の指導者たちの心をご存知だからです。ですから、ベニヤミン・ネタニヤフへの私からのアドバイスは、大して何の役にも立ちません。なぜかと言えば、単純に、神の御言葉、2,800年前に預言者によって書かれた預言は、実現するか

らです。私がアドバイスしても、しなくても、です。私がヨーロッパに行って、ヨーロッパ中の国会で「あなたがたは、もうすぐ反キリストを生み出す」と、一人一人に言ったとして、それが反キリストの登場、興りを止めることができますか？絶対に出来ません。

【質問 8】 こんにちは、多くの牧師が完全にイスラエルを無視しています。私の牧師は、最近こんな風に祈りました。「主よ、感謝します。アブラハムに与えられた約束は、今では私たちのものですから。」神はこのような態度を憂いておられると思いませんか？もし、そうなら、私はどう対処すべきでしょうか？

【答え 8】 まず第一に、この祈りは何ら問題ありません。異邦人が一旦キリストを受け入れたなら、——聖書にはローマ人への手紙 11 章にこうあります。「野生のオリーブであるあなたが、イスラエルに接ぎ木されて、油の豊かな根をともしにする」（ローマ 11:17）。だから、皆さんも今では御国の祭司であり、聖なる国で、——これはイスラエルの民について語られるのと、同じ言葉です。ですから確かに、約束は皆さんにも当てはまります。ただし、皆さんがイスラエルに置き換わることはありません。これが、多くの牧師が間違える部分です。この牧師の祈りだけでは、私には分かりませんが、もし、彼が置換神学を教えているのなら、その教会を出るように勧めます。彼は、神のみことば全体の中で、最も重要な部分を除いていますから。つまり、神の主権だけでなく、神がその約束に忠実であられるという事です。神の選びの民について、神の賜物について、主は裏切らず、考えを変えたりされないと、聖書に書かれています。神は、コロコロ気変わりされません。ですから、もしそういう事なら、もちろん、とても気になりますし、神はそれを見ておられると思います。とてもとても残念ではありますが、聖書の中には、終わりの時に背教が起こる、と書かれています（書記注：マタイ 24:10 参照）。大規模な背教が起こる、と。道から逸れるのが背教です。「イスラエルはもはや、神の民ではない」とか、「神は、もはやイスラエルに対する約束を守られない」とか、「現在、我々教会が新しいイスラエルであり、彼らは忘れ去られ、今では全てが私たちのもの」という教え、これは異端の教えです。多くの方が、エレミヤ書 29:11~12 が大好きですが、この箇所は、イスラエルの民に与えられた約束です。主は彼らを罰し、バビロンに 70 年間送り込まれるが、主は彼らに戻される、という事実について、です。

- 10 まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。
- 11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。
- 12 あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。
- 13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つかるだろう。

(エレミヤ書 29:10~13)

神は、過去にイスラエルを罰せられたかもしれませんが。後にも、イスラエルの不信仰を罰せられるでしょう。しかし、いつでも主がそれを行われる時、必ず、主の脳裏にあるのは、彼らを取り戻したいという思いです。主が、彼らを取り戻し、主が、彼らを救うのです。救いはユダヤ人から来るという事を、皆さんは理解しなければなりません。聖書にそう書いてあるのですから。もう一つ、皆さんが理解しな

ければならないことがあります。もし、神が、イスラエルについての考えを変えられるなら、神があなたに関して考えを変えないという保証はどこにあるのですか？あなたは完璧ですか？いいえ、違います。完璧な人なんていません。イスラエルも完璧ではありません。クリスチャンも完璧ではありません。次に、こう言う人がいるでしょう。

「じゃあ、アミールさん、イスラエルはキリスト抜きで救われると言うのですか？」

もちろん違います！聖書には、ゼカリヤ書 12 章で、彼らは突き刺した方を見ると、嘆き悲しみ、悔い改めると告げています（書記注：ゼカリヤ 12:10 参照）。これが、まさにゼカリヤが見たことであり、ヨハネの黙示録に見られることです。彼らが突き刺した方を見た時、その悔い改めが、彼らの救いをもたらすのです。

【質問 9】イスラエルに住んでいるイスラム教徒は、シャリア法（イスラム法）を用いることが許されているのですか？また、それをイスラエルの人たちに課す事が認められているのでしょうか？

【答え 9】まず、イスラム教徒たちのための、イスラム法の裁判所はあります。イスラム教徒だけが対象です。私たちは中東の中にいますから、彼らの必要も認識しています。また、私たちの所には、大きなイスラム社会も存在します。しかし、イスラエルでは、イスラム法は政府によって監視されていて、イスラエルの法律にとって代わるものではありません。つまり、イスラエルにあるイスラム法の裁判所はどこも、どんな理由であれ、女性に死刑を言い渡すことは一切出来ません。つまり、我々の所にあるイスラム法の裁判所は、イスラエルの法律と司法制度に従わなければなりません。ですから、過激派イスラムが課そうとしている「イスラム法」とは、少し違います。ですから、質問の意味がそういう事なら、答えは、「NO」です。イスラエルには、それはありません。実際、そのイスラム法の裁判所で、つい先日、女性の判事が任命されましたから。それで分かるでしょう。当然、過激派イスラム教徒は、そのようなイスラム法の裁判所を正当なものとして受け入れません。しかし、イスラエルは、誰に対してもそれを課すことは認めていませんし、イスラム法を、イスラエル国家の法律に置き換えることも認めません。

【質問 10】第一コリント人への手紙 15:52 にある「終わりのラツパ」は、7 つ目のラツパの事を言っているのでしょうか？黙示録 17 章について、混乱しています。

【答え 10】では、説明しましょう。聖書が言っているラツパは、神のラツパで、耳では聞こえません。私たちがここから取り去られる時、世界には何も聞こえません。私たちは瞬く間に取り去られるのです。

40 そのとき、畑にふたりいると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されます。

(マタイ 24:40~41)

人々が仕事場から、大学から、自宅から、いろいろな所から、上に挙げられるのです。これは、皆が耳にするラツパではありません。これは、天で鳴るラツパです。第一テサロニケ人への手紙 4 章を読め

ば、物凄い事が天で起こると書かれているのを、忘れてはなりません。素晴らしい事です。でも、この地上では、見ることもなければ、聞くこともありません。ちょうど、ダニエルに悟りを与える為に、ガブリエルが訪れようとしている時と同じです。聖書には、ダニエルが祈り始めた瞬間に、降りて行って、ダニエルに伝えるようにと命令が下されたと書かれています（書記注：ダニエル書 9:21～22 参照）。言い換えると、天にも軍の階層がいくつもあって、ラツパを鳴らしているのです。天の軍勢です。そして、王の王、主の主が誰であるかは、私たちも知っています。総司令官とは、誰ですか？もちろん、白い馬に乗られる方、ももに、その御名が記されている方ですね（書記注：黙示録 19:11～16）。私たちが覚えておかななくてはならないのは、そのラツパとは天のもので、地上のものではありません。

【質問 11】黙示録で、獅子と、熊、ひょうは何を表しているのですか？メシアニックジューは、これをどう教えていますか？聖書の中で、イスラエルはどの動物に例えられていますか？

【答え 11】まず、ダニエル書 7 章にこれらの動物が出て来ます。そして、黙示録にもこれらが出て来ます。見ての通り、ダニエルは過去から将来を見ています。ですから、彼が書いた順番は、最初のローマ帝国の時代に生きた、ヨハネの見たものとは異なります。これらは帝国、国々の名前で、ユダヤ人はダニエル書のように見ましたし、私たちもまた、黙示録の中にこのように見るべきです。イスラエルを表す動物については、私には思い当たりません。メシアは、ユダ族の獅子ですが、イスラエルはオリーブや、ぶどう、ぶどうの木、それからヤシの木、その他、むしろ植物に例えられています。

【質問 12】患難は三年半で 1260 日だと、黙示録 11:3、12:6 に書かれています。ダニエル書 12 章には、「荒らす忌むべきものが据えられる時から 1290 日」とあり、その後さらに 30 日あります。具体的に起こる出来事等を説明してください。

【答え 12】まず、今はこれにはお答えしませんが、私は今、患難に関するメッセージをまとめています。明らかに、患難とは、後半部分の大患難だけを意味するのではなく、これは 7 年の期間であると私は思っています。それは、偽の平和、偽の希望から始まって、試練、そして反キリストが神殿に入り神宣言することを、イスラエルが拒絶するゆえに、イスラエルを滅ぼそうとする物凄い大惨事と激しい攻撃でクライマックスを迎えます。ですから、現在はそこに何の意味もないのです。私は今、この 30 日については深くお話しません。なぜならまず第一に、正直に言いますが、私には分かりません。第二に、日数を数え始めると、全てが間違った方向に行ってしまいます。どこから数え始めるのか、私たちには分かりませんから。ただ、1260 日はきっちり 3 年半であることは、私にも分かります。しかし、7 年が終わった次の瞬間にキリストが戻る、とは書かれていません。7 年間というのは、契約が 7 年である、ということで、キリストが戻って来られるために与えられた時間ではありません。ですから、……契約が終わるや否やキリストが再臨する、と誰が言ったのですか？だから、そこを深く追求しても、意味がないと思います。

【質問 13】黙示録 19:6～9 に書かれている小羊の婚姻とは、携挙のことですか？もしそうなら、どうして小羊の婚姻と婚宴がここで一緒に書かれているのですか？

【答え 13】 19 章は、ようやく私たちについて語られる箇所です。つまり、4 章から 19 章を通して、患難が語られる中で、私たちは一切出て来ません。それは、世が患難に直面している間、私たちは天国にいるからです。ですから、世で起こる事の説明が一旦終わって、19 章では婚姻と婚宴について語られるのです。理解しなければならないのは、地上で起こる実際の 4 つの祭りは、天で起こる披露宴、祝宴で、その祝宴にはもっと多くの招待客がいるのです。これはもちろん、千年王国の始まりで、私たちはそれをメシアの時代とか、メシア王国と呼びます。

【質問 14】 千年王国では誰が統治支配するのですか？ 144,000 人のユダヤ人はどうですか？ 誰が復活のからだで千年王国に入るのですか？

【答え 14】 とても面白い質問ですね。まず、私たちが理解しているのは、私たちは患難前に携挙されます。私たちには新しい体、栄光の体を与えられるのです。つまり、私たちの体は、栄光の体、朽ちない体に変えられる、と聖書に書いてあります。ですから、確実に私たち信者は、一旦天に挙げられたら朽ちない体になります。地上にいる間は、人はまだ朽ちる体です。しかし、聖書には非常に明確に記されています。患難時代の聖徒でさえも、——ところで言うておきますが、144,000 人はその一部だと私は思っています。なぜかと言えば、彼らの信仰は、私たちがいなくなってから、再成立もしくは成立するからです。彼らはイスラエルの 12 部族から、イスラエルの人々に伝道するために選ばれる人たちです。彼らは患難時代に死に、患難の終わりによみがえる人たちの一部だと、私は思っています。よみがえると、当然、栄光の体でなければなりません。患難時代の聖徒であれ、患難の終わりによみがえった聖徒であれ、もしくは患難の前によみがえる私たちであれ、私たちは全員、栄光の体に変えられます。そして、私たちが地を統治する時、私たちは栄光の体を持っていない人々を統治するのです。私たちは、彼らを千年の間統治するのです。ですから基本的には、人がある期間生きて死に、彼らの子ども達、その子ども達、そのまた子供たち…を私たちは見るのです。だから私はいつも言うのです。最初によみがえりに加われば、第二の死はあなたの上には降りかからず、永遠に生きるのです。

【質問 15】 マタイ 24 章に書かれているのは携挙の事ですか？ それとも、再臨ですか？

【答え 15】 とても面白いのですが、多くの学者たちが「再臨」を表現だと信じています。最初に主が教会の為に来て空中で会い、次に教会と共に地上に来る、約 7 年間についての一般的な表現である、と。マタイは両方について語っています。「取り去る」という描写は、私たちがここを出る携挙、そして、主が私たちと戻ってくる時の事も書いています。

【質問 16】 エゼキエル 39:9 には、「イスラエルの町々の住民は出て来て、武器、すなわち、盾と大盾、弓と矢、手槍と槍を燃やして焼き、七年間、それらで火を燃やす。」と書かれています。この異なる時間枠について、理解できるよう説明していただけますか？ 実際に異なる時間枠があります。

【答え 16】 質問の意味がよく分かりませんが、

(質問の続きを読む)

「エゼキエル 39 : 17~29 は、その前の説とは預言的に異なる時間枠で、22 節には『わたしが彼らの神、主であることを知ろう』とあります。」

大事なことを理解しないとイケません。エゼキエル 38、39 章両方の成就是、高い確率で私たちはもはやここにはおらず、目撃しません。ここから神は、イスラエルに対処し始めるのです。教会がいなくなり、神はイスラエルに対処し始めます。そして主が、どのように彼らに対処されるかと言えば、それは主が彼らの為に戦争に勝利することによって始まり

22 その日の後、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。

(エゼキエル 39:22)

ちょうどヨム・キプール戦争(書記注:第4次中東戦争とも。1973年10月)の時、私たちが負けそうになっていたところへ、神が奇跡的に介入されたのと同じです。そこで誰もが、勝利は自分たちの力ではなく、主のものであることを認識したのです。これが、イスラエルの人々が、神を探し求める時となるのでしょ。しかし問題は、その時にはあまりにも多くの混乱と、あまりにも多くの欺きがある事です。なぜなら、一旦その戦争が終わると、イスラエルは大変弱い状況になります。一方で彼らは神を信じたいと思い、神が戦いを勝利されたと言います。

「さあ、神を礼拝しよう！」

「神の為に神殿を建てよう！」

これは、誰かが世界的指導者として神殿を差し出すのに、絶好の機会となります。そして神殿が建てられ、3年半の間、彼らは騙されるのです。

「メシアがやって来る！世界は平和で繁栄している！」

「これだ！」

と。ユダヤ人がいつものように、メシアと言えば「平和だ、繁栄だ。」となり、そして、どうなるかと言えば、——彼は神殿を建てるだけでなく、中に入り、自分を神として拝めと命じます。その時は、イスラエルがエゼキエル戦争で自分たちが見たものが基となっているため、

「それは違う。あなたは、平和と繁栄をもたらすために神に用いられたかもしれないが、あなたは神ではない。」

その時から反キリストはイスラエルを迫害し始めるのです。そして、イスラエルの3分の2が死ぬと、聖書のゼカリヤ書13章に記されています。このように、驚くべき瞬間があるのです。基本的には、それが患難に突入する瞬間です。エゼキエル戦争が終わった直後、イスラエルのメシアに対する期待が高まります。神が、彼らを救い出されるのですから。それは神の御業だという証拠がある。だから、

「さあ、神を礼拝しよう！」

「さあ、神殿を建てよう！」

となるのです。考えてみてください。現在は大部分において、イスラエルのユダヤ人60~70%が神殿についての話すら興味がありません。私たちの社会は、非常に世俗的というのか、(信仰)実践のない社会になってしまいました。神殿研究所に行くと、神殿に情熱を注いでいるユダヤ人の小さなグループに出会うでしょうが、大体において、イスラエルにいるユダヤ人の大半は、それほど熱心に考えていない

のです。ポスト・モダニズム、世俗主義、ヒューマニズム、そういったものが私たちの社会に広く浸透しています。しかしながら、あらゆる疑いの影を超えて、神が勝利される時、私たちが絶滅寸前にある時に、です。覚えていますか？ロシア、イラン、トルコ、スーダン、そしてリビアに、主が立ち向かわれるのです。聖書はエゼキエル戦争を、神がもたらす驚きの勝利だと説明しています。アメリカが助けに来るのでもなければ、ヨーロッパが助けに来るのでもない。サウジも、誰も私たちが助けには来ないのです。神だけです。そのことが、ユダヤ人にとっては、神が再び解放してくださったという証拠になるのです。

「さあ、神を礼拝しよう！」

そして、反キリストが和平協定の“宗教的側面”をもたらすのにそれを利用するのです。

エルサレムが交渉の場に上がり、彼は神殿建設を許可します。それが、彼がそこに辿り着くやり方です。

以上です。全ての質問には答えていませんが、ほとんど答えました。今後、もっと頻繁に Q&A を行う予定です。私はその事にとってもワクワクしています。実に多くの事が起こっていて、実に多くの事が起こりつつあります。私たちは終わりの時代に生きています。

それから、良いお知らせがあります。私の著書「終わりの時」(The Last Hour) の出版に向けて、出版社との契約が成立しました。本屋に並ぶまでに1年ほどかかりますが、もう既に2冊目の著書にもとりかかっていますので、それもいずれご覧いただけます。こちらは、携挙以降に起こる出来事についてです。ともかく、現在起こっている事、またこれから起こることに対して、私はとてもワクワクします。何度も言いますが、どうか皆さん、他の何かではなく、天に目を向けてください。私たちの贖いが確実に近づいていますから。そして、どうか覚えていてください。私たちは備えをしなければなりません。今日も、です。

では、祈りましょう。アロンの祝福で締めくくります。

お父様、あなたの御言葉を見ることが出来、感謝します。約束の御言葉です。

お父様、あなたの御言葉は真実です。世の中は、あなたの御言葉から離れてしまいました。いのちに与えられた御言葉です。ですから、私たちの目が開かれた事、私たちの心が開かれ、あなたの御言葉に対する悟りが与えられたことに感謝します。

お父様、感謝します。私たちを贖ってくださった、イエスの血に感謝します。

私たちを新しくしてくださる、聖霊の力に感謝します。主から離れては、私たちには何も出来ない事を理解させてくださいます。主と共になら、私たちには全ての事が可能です。主の来臨に際して、私たちに与えられている大きな希望に感謝します。

お父様、私たちはあなたの御怒りに遭うようには定められておらず、あなたの御国を受け継ぐように定められたことに感謝します。

あなたに感謝し、あなたを祝福します。

では次に、アロンの祝福を皆さんに送りたいと思います。

(ヘブル語、右から左に読む。)

ヴエイシエメラー アドナーイ イェヴァーレフハー
 וְיִשְׁמְרֶךָ יְהוָה יְבָרְכֶךָ
 ..(主が)あなたを守られますように 主が あなたを祝福し

ヴィフネッハー エーレーハー パーナーヴ アドナーイ ヤーエール
 וְיִתְנֶה אֵלַיךְ פְּנֵי יְהוָה יֵאָר
 ..(主が)あなたを恵まれますように あなたに(向けて) 御顔を 主が 照らし

シャーローム レハー ヴェヤーセーム エーレーハー パーナーヴ アドナーイ イッサー
 שְׁלוֹם לְךָ וְיִשֶׁם אֵלַיךְ פְּנֵי יְהוָה יִשָּׂא
 平安を あなたに (主が)賜るよう あなたに(向けて) 御顔を 主が 上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
- 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

シャローム、これは、全ての人の理解を超える平安、世が与える事の出来ない平安、世は理解すら出来ない平安。平和の君だけが、与えることの出来る平安です。もし、あなたが主を知らないなら、どうか、主をあなたの心に招き入れてください。くれぐれも、宗教的にはならないで、主を招き入れて、聖霊の力によって変えてもらってください。主が、あなたを新しく造られたものに変えてくださいます。皆さんに感謝し、祝福します。

これら全てを、他にない、美しいヤシュア、イエスの御名によってお祈りします。
 アーメン。

ありがとうございます。何度も言いますが、抽選をお忘れなく。いくつか応募条件があります。世界情勢アップデートも、素晴らしい時間でした。そしてもちろん、Q&A も。これから2週間、旅をしながらインターネットでお伝えするのが楽しみです。Behold Israel のため、そして私の為に、続けてお祈りください。ただ言葉だけでなく、行動出来ますように。神が私に与えてくださった道に、忠実でいられますように。これが容易いことではなく、攻撃は至るところからやって来ます。しかし、主によって、私はどんなことでも出来ると信じています。

ありがとうございます。God bless you! そして、シャローム！イスラエルのガリラヤより、さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

筆記 by MIHO